

2019年6月吉日

愛知県教育委員会

教育長 長谷川 洋 様
教育委員 廣 美 里 様
教育委員 大須賀 憲太 様
教育委員 広 沢 憲 治 様
教育委員 伊藤 志のぶ 様
教育委員 佐 々 憲 一 様

愛知県教職員労働組合協議会
議長 岩 澤 弘 之

全国学力・学習状況調査に関する要請書

日頃は、愛知県の教育行政にご尽力いただき、ありがとうございます。

子どもたちはだれもが、「授業が分かるようになりたい」「勉強が好きになりたい」と思っています。ところが、全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）は、大切な授業時間を削り、2時間あるいは3時間とテストが続きます。また、授業で学習したことのない難しい問題が多く含まれています。子どもたちは、テスト続きで疲れるだけでなく、問題が解けなくて学習意欲を低下させています。質問紙で内心やプライバシーに関わることまで事細かに調査されることと併せて、子どもたちを苦しめるものとなっています。

また、文部科学省が都道府県・政令指定都市別の成績を公表するため、全国的には、競争や序列化による弊害が激化しています。

一方で、全国学力テストの見直しを求める世論が広がっています。

2017年12月、福井県議会は、「福井県の教育行政の根本的見直しを求める意見書」を可決して、福井県教育委員会に提出しました。意見書は、「『学力日本一』を維持することが本県全域において教育現場に無言のプレッシャーを与え、教員、生徒双方のストレスの要因となっていると考える。」と指摘しています。これは、全国学力テストによる競争が、いかに教育をゆがめているかを示すものです。

2018年8月、青森市いじめ防止対策審議会は、中学2年の生徒が自死した事案についての「報告書」を公表しました。以下、全国学力テストに関わる部分を紹介します。

国は、全国一斉の学力・学習状況調査が学校現場の競争的環境の一員となっていることを踏まえ、また競争的学校環境が児童生徒にストレスを与えていることを踏まえ、その実施を含めた学力・学習状況調査のあり方について再検討するとともに、子どものいじめ、自殺、精神疾患等を引き起こす過度な競争をなくすための教育システムの構築に向けての抜本的改革に取り組まれない。

全国学力テストは、子どもたちを苦しめ、競争をあおり、学校教育をゆがめるものです。そこで、以下のことを要請します。

記

- 1 市町村別および学校別の成績を公表しないこと
- 2 「学力充実プラン」を通じての問題別平均正答率の公表をやめること
- 3 事前のテスト対策をしないよう市町村教育委員会を指導・助言すること

以上